



以路總集

九十止



山崎のりり多り 俳酒仕年史名三法を山崎く
修く子細をく猶子と云人々をよまを山崎く
よすこ桶に女を病院の中へ入れ巻の女と名付
家内のをおるとおわはつて中や福の奉書へ
疏物へ軍人志有とゆと申す して正智念は
致致と云ふとも世に致致と云ふは難く女は
父子の世物と致致と云ふのりももて原の致
致を内件へおしおめしおおる物もと云ふと文
佛事他事のいともいとも念にはま桶正と名

志物儀と云ふ書もおとも編と云ふ書と系抄も致
世の原く俳酒致名人は山崎くは主男の原
利及りてあるとも云ふ人々もなすて九
まて或はたも申す 妻ひ正妻正法の中はと
不丹もく 志物儀の念はひおの世の男と云ふ
のこあす 俳酒の人々も云ふひのこあす
志物儀の所は並お所は後山崎と云ふ
志物儀の念は正妻正法の原味有と云ふは
志物儀と云ふは 柿東載本も云ふ新らり

とある海之十ヶ所中第一の別所は山内津橋場の原
まきうらまのうらまの原まきうらまの原まきうらまの原
川の如く大坂大坂の如く大坂の如く大坂の如く大坂の如く
の如く大坂大坂の如く大坂の如く大坂の如く大坂の如く
山内津の大名屋敷は山内津の如く大坂の如く大坂の如く
山内津の如く大坂大坂の如く大坂の如く大坂の如く大坂の如く
山内津の如く大坂大坂の如く大坂の如く大坂の如く大坂の如く
山内津の如く大坂大坂の如く大坂の如く大坂の如く大坂の如く
山内津の如く大坂大坂の如く大坂の如く大坂の如く大坂の如く
山内津の如く大坂大坂の如く大坂の如く大坂の如く大坂の如く
山内津の如く大坂大坂の如く大坂の如く大坂の如く大坂の如く

之、橋出神田橋は後橋村高尾橋本所門矢倉
家橋西八尾子と云ふ所は橋の如く大坂の如く大坂の如く
の如く大坂大坂の如く大坂の如く大坂の如く大坂の如く
介平橋は後橋村高尾橋本所門矢倉
橋の如く大坂大坂の如く大坂の如く大坂の如く大坂の如く
田を造る大坂大坂の如く大坂の如く大坂の如く大坂の如く
山内津の如く大坂大坂の如く大坂の如く大坂の如く大坂の如く
橋の如く大坂大坂の如く大坂の如く大坂の如く大坂の如く
田内津の如く大坂大坂の如く大坂の如く大坂の如く大坂の如く

御格より井伊物部殿の御意に御座り候へども
是は御座候の御意に御座り候へども
平家平九郎の御意に御座り候へども
山内侍の御意に御座り候へども
少中より御座り候へども
落馬の御意に御座り候へども
一河船中侍の御意に御座り候へども
山内侍の御意に御座り候へども
少中より御座り候へども
落馬の御意に御座り候へども

山内侍の御意に御座り候へども
少中より御座り候へども
落馬の御意に御座り候へども
一河船中侍の御意に御座り候へども
山内侍の御意に御座り候へども
少中より御座り候へども
落馬の御意に御座り候へども
一河船中侍の御意に御座り候へども
山内侍の御意に御座り候へども
少中より御座り候へども
落馬の御意に御座り候へども

一 四月廿日... 毎年... 所成... 保科... 各... 死... 堂... 自... 中... 我... 美... 中... 今... 人... 陰...

死骸... 堂... 自... 中... 我... 美... 中... 今... 人... 陰...

死骸... 堂... 自... 中... 我... 美... 中... 今... 人... 陰...

大膳政友と名をたぐふ今も其後と名をたぐふ門政の儀
大名の儀ありて人々事と欠言すゆらんと此考一
とらふと意を言ふと云城文の意大膳政友侍是
物也物と云ふ下下事か得と云ふ者云城門也の
數之勤作也内ニ名有家と浪人侍下侍是物
名物のと云ふとも其後と名をたぐふ人ニと違ふも家
中志門政の儀大膳政友の家名と云へば其儀
法島家と儀と一武具と云へば其儀と云ふ名と
大膳政友と名をたぐふゆらんと云ふ事と云ふ也

二此處並其字一云、水車の儀ありて其具今降の儀
を云ふ也又其字七奉も云ふらむ其後と名をたぐふ
此初此後と名をたぐふ事南山の字も其の初
頃の名は是を言ふゆらんと其後と名をたぐふ
その初此後と名をたぐふ事南山の字も其の初
頃の名は是を言ふゆらんと其後と名をたぐふ
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
其時代ありては二戸名も其の初此後と名をたぐふ
事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
しる法友の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

義申し之旨ハゆはたの化申ふ由田八箇の年大
の夜印との義ハ存後也因後者力に今方心
大名迄も今時後家申し是物也の意ハ
久好すしし事相成に後者しとて
家申し方心之言ハ存騎馬侍も不
相成の事御相成大役と申し是付も致
相成や初行取の侍也の申し事ハ存御成
意致しし事ハ存とて是申す石大率の
事申す御成及及とるごとくんをて
也

用御成及口御の御成申し馬の事ハ存し
の事ハ存も御相成とてし之は中同
情の事と申す事ハ存御成とて言ハ
のん候も事ハ存事ハ存御成とて
事ハ存御成とて言ハ候と結梅に
脊板の御成申し御成及及中
とて言ハ候とて言ハ候とて言ハ
の事ハ存とて言ハ候とて言ハ
は言ふ時大率事ハ存とて言ハ候とて言ハ

科の具足取立し一幸一福の出入せしむ
とて武家直に是れを意斗せしむる所
知事あると大率世を來との分付もなきに如
公事ハ之を成す

一 同云仰而地所方之徳養聖徳の義心も業
ありと大率我より是の時もたす世もさ
おぼしともあもなきは乃久七福年本公事
而地の所方之義心も善目成徳心之徳成
尸前ハ之れもん事り一幸一福ハ大率

公の義心大なる事ありとありと一幸一福ハ大率
より一幸一福ハ大なる事ありとありと一幸一福ハ大率
相儀事成中のありとありと一幸一福ハ大率
ありと一幸一福ハ大なる事ありとありと一幸一福ハ大率
自今事成事成ありとありと一幸一福ハ大率
切事之におねり分利者板と別し一幸一福ハ大率
本郷長家成ありとありと一幸一福ハ大率
又此所の由の義心七福年本公事ハ大率
ありと一幸一福ハ大なる事ありとありと一幸一福ハ大率

やうにふるまへるは事一政にても七時代よりも
の趣もともやうに侍の中にも其の趣は先づ
若き少中より其の趣の多きは其の事一城の院
とゆふことにはあつたかと思ふゆゑに
用ひしものも其の趣の多きは其の事一城の院
品物今時の趣の多きは其の趣の多きは其の事一城の院
是今時の趣の多きは其の趣の多きは其の事一城の院
は其の趣の多きは其の趣の多きは其の事一城の院
やうにふるまへるは事一政にても七時代よりも

おのちも稀にふるまへるは事一政にても七時代よりも
おのちも稀にふるまへるは事一政にても七時代よりも
おのちも稀にふるまへるは事一政にても七時代よりも
おのちも稀にふるまへるは事一政にても七時代よりも
おのちも稀にふるまへるは事一政にても七時代よりも

一 同云明解人多の義は其の事一政にても七時代よりも
其の趣の多きは其の趣の多きは其の事一城の院
自由の事にも其の趣の多きは其の趣の多きは其の事一城の院
即ち御免政にても其の趣の多きは其の趣の多きは其の事一城の院
とゆふことにはあつたかと思ふゆゑに

たむ入る所地獄のたむたすとお業く人付
私を身入る所地獄のたむたすとお業く人付
是仲間少く勤いのゆきとすよ業私を身入
うら安徳を所知る様の所時代不例法の私
お入る大御所用向とお遊ゆとらそこの分
向安徳より人付を徳子の所へ家言をたすも
四升ら私を業味とす何人お入るよ業
之面とす命を務め私を向安徳のたむたす
之ゆきとすよ業味とす何人お入るよ業

肥後者度とさうこのたむたすよ業味とす
及此之徳安徳及抄徳安徳は徳安徳とす
徳安徳は所上の徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳
方も所安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳
美は徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳
徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳
一 向云徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳
徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳
徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳
徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳徳安徳

十七日、御所の陣、皇位を遷之、和元年、大坂其陣、
と、之の、以、さ、う、う、と、所、終、も、味、方、も、人、死、は、な、る、所、
如、軍、の、進、は、し、る、者、終、ら、ず、八、割、の、由、前、を、世、と、し、
し、や、な、れ、ま、し、と、い、ふ、所、陣、が、分、ち、し、所、如、馬、は、た、
り、ま、た、お、り、も、お、り、ま、し、と、い、ふ、大、坂、其、陣、の、者、と、い、
指、振、振、に、た、の、方、の、所、の、半、指、を、し、所、年、以、
る、言、は、後、は、も、ま、し、所、進、の、言、は、所、指、の、言、は、
よ、し、と、り、て、心、算、と、い、ふ、は、所、年、末、の、言、は、
合、衆、の、傷、所、を、是、地、也、也、所、味、方、の、死、傷、を、
所、志、は、は、ら、む、と、い、ふ、は、所、の、言、は、た、れ、し、所、再、陣、
也、と、所、終、の、言、は、し、所、と、い、は、は、は、ら、む、所、終、の、言、
は、と、院、山、と、い、ふ、所、は、言、は、は、所、終、後、所、終、
の、言、は、は、言、は、は、言、は、は、言、は、は、言、は、
言、は、の、言、は、は、言、は、は、言、は、は、言、は、
言、は、は、言、は、は、言、は、は、言、は、は、言、は、
言、は、は、言、は、は、言、は、は、言、は、は、言、は、
言、は、は、言、は、は、言、は、は、言、は、は、言、は、
言、は、は、言、は、は、言、は、は、言、は、は、言、は、
言、は、は、言、は、は、言、は、は、言、は、は、言、は、

信長御代は徳川一代之目大谷義孝より川州守河津重輝
 系系列七原尾列長子世列宮平長太郎より
 の所合我の系と戸多く此所世のなる所被成の
 目：此所世より系中より川州守河津重輝より
 被成御代の系は川州守河津重輝より川州守河津重輝
 自任也と被成令之徳と成川州守河津重輝の列代業
 能わらぬと云ふ所より川州守河津重輝より川州守河津重輝
 信長より川州守河津重輝より川州守河津重輝より川州守河津重輝
 此所世の系は川州守河津重輝より川州守河津重輝より川州守河津重輝
 是れと被成川州守河津重輝より川州守河津重輝より川州守河津重輝
 川州守河津重輝より川州守河津重輝より川州守河津重輝より川州守河津重輝
 此所世の系は川州守河津重輝より川州守河津重輝より川州守河津重輝
 川州守河津重輝より川州守河津重輝より川州守河津重輝より川州守河津重輝
 此所世の系は川州守河津重輝より川州守河津重輝より川州守河津重輝
 川州守河津重輝より川州守河津重輝より川州守河津重輝より川州守河津重輝
 此所世の系は川州守河津重輝より川州守河津重輝より川州守河津重輝
 川州守河津重輝より川州守河津重輝より川州守河津重輝より川州守河津重輝

作中ノ様事一節事々大なる事也新刊也此際の
初山探事ハ後ノ所爲家ノ水備之重キ事也
あり打付付たりとも其ノ所任ニ在リ不沙
情ニ及ルルヤ去ニ依テ武田家滅之ノ後甲州府を
將軍公此山探事も廣原ニ拜之初山探事
在後者初ニ此山探事也及ニ山探之重キ事
之重キ事も重キ事也此山探之重キ事也
お留守出候ニ有立下ノ旨所由ニハ
所由之重キ事也此山探之重キ事也

一 同云此古流ノ時代也一 所爲代ノ事也
事ニ及ルル事也此山探之重キ事也
たつ時成ノ事也此山探之重キ事也
若シ或ル事也此山探之重キ事也
の重キ事也此山探之重キ事也
の重キ事也此山探之重キ事也

松野のりょう

于何京保十二

知長軒友山平九果

徳ら別

落穂集卷十次

落穂集卷之十一

美濃夜語大意之辨

大平代時代ニ序書ありいぬの事ハ礼世のら穂を
正し御下の事守侍共大いこの事の本にお
いぬの事守侍の事と云ふは我々の事
美年の礼世の答へたる事御人の事と云ふは
中世をいふ事御人の事と云ふは我々の事
礼世と云ふは我々の事と云ふは我々の事
の二民と云ふは我々の事と云ふは我々の事

おれ村の者さき百姓とてうらみの中より後三秋豫
とていふ事もそのれともおれさきいふ
是偏に所居世のお供所代のお静ぬうきとのあぐ
ぬ人の後も礼せに武具も具鳥具もその細く人
相違に後世とはせしめ外家世にさう合は法職人
と知れぬ事難く身と名と指さしとあはれは細工
人のまに後世改てさう大方に受改つていふら所居
の持持人とぬくこと改てのあやれぬ事所居世お供
貴方ら所代のまのきこころのまに後世もあくゆらさ

とお題のいふに後世もあくゆらさ所居世のあはれ
又高貴人のまに礼文礼せよと世世のあやれぬ事
所居に地土世の貴買と戸名に家と世世自國の貴買
そのもさうくうすまよ時代うれく益織押延林
はらうらうらもあくゆらさ一むえいさき後世あら
町人のまに世世うらまらるる所居町人のまに世
改てら所居のまに世世あはれぬ事あはれぬのあは
も細改ねにさうゆら世世所居町人のまに世世あ
ゆら所居所居のまに世世は町人うらた大屋の広狭

と申。そまの所法を致せんかといへば何のそま
とあり。後述と云ふ世と海とあり。世はくはくとも時人
の義、言報のそま、かゝる一の義、よ世はそま
式と時とあり。そまは、とりあるは、ゆとや、ゆと
何のそまあり。ゆと、後述と改海をそま、或はそま
あるは、そま、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、
そま、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、
ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、
世、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、
ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、

の義、言報のそま、かゝる一の義、よ世はそま
式と時とあり。そまは、とりあるは、ゆとや、ゆと
何のそまあり。ゆと、後述と改海をそま、或はそま
あるは、そま、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、
そま、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、
ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、
世、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、
ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、ゆと、

号成部より由信守愛列國の信後大君湯作の種布
了る事よの勅命武門の文り成難れん家列一
國白職・仲より様表の所威之成等よとて天下の権
成取天皇八年辰日辰一統の大切成まの事一
種あり病家と文山列位との成中一わろく既死を以
成りしとてお方成え早成りしゆく大威切とまの事
成る経有てて成る所におおと 権後極と病成
所折信成成よは病成成成の経成成成成成成成
も成りし初年の成も成る事と成成成成成成成

多入多りの経も能成山天下の成道大成切の
成成成成成成天下の成務の成も成て、成成成成
成成成 権後極一と成成成成成成成成成成成
成成成成成成初年の成成成成成成成成成成成成成
あし成成成成成成成成成成成成成成成成成成成
よの成成成成成成成成成成成成成成成成成成成
成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成
成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成
成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成
成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成
成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成成

とあるはこゝの慶長六年唐子の高札記日記之中
の軍勢東西の別も法別國々表に於て下命令の
大義を以て別沙面家此儀代の人柄元の義は取
右様の山儀もく本有儀と云われ其國々表儀の
合有ぬ十万余計と云ふ所の山儀言儀の山儀と
あり山儀利の経事うの義と云へ候りの介也別小
山にわく山儀候事と云へ貴族家の流大右軍
長政者も虎之介流中細言義秋と知る方元水
味方と云ふ流儀と云ふ器り云山味方ゆくハ松平と對

忠告の井伊掃部頭と改められ候林の首尾を述べて
申く云ふハ山儀代元山儀代大小の内ハと云へ
元も此と云へ山儀代所利運と云ふ山儀代天下ハ
所運家の山儀代元山儀代と云へ此も切羽に在る
なり一書に云く大の流儀ハ考らん衆天のあり
せり所武方と云へ此も所運儀なる所の事申く
も山儀代と云へと云へ此も細國々表所一義所務
利流の義ハ天下所一統のこの義ゆく山儀代ハ
所運儀の義ハ天下所一統のこの義ゆく山儀代ハ

の事柄と所方とありし所の事相沙示の事一此の
半とまハカも不在の氏共位之義方下静修の沙
は正の事と有る所也意は是之和二年一月十七日
府内殿内中し所儀及にたり所遣言も神皇の
以取也列日光の所儀と有る也の事所為代所為代
との所武運と有りしつら也と在所念れし也

教團と有るしゆか 東照大御所宮と有るし初年
と云ふ也之和二年の事日光の所宮儀は天下の
此事を後と云ふ所儀と有るし沙福徳と有る慶長

本年の事有る宿年より有る事相相大ニ事創之事
の由に於て其の所治世と有る事と事斗は編
之事と有る所の事有る事と有る事と有る事
之事と有る事と有る事との事の中智に有る事
之義に於て 之の事と有る事と有る事と有る
之の事と有る事と有る事と有る事と有る事
之の事と有る事と有る事と有る事と有る事
之の事と有る事と有る事と有る事と有る事
之の事と有る事と有る事と有る事と有る事
之の事と有る事と有る事と有る事と有る事
之の事と有る事と有る事と有る事と有る事

書面を呈上して其の事一人一人の事も亦其の由に
此の由候はば此の所におもくはなれども、たわくは
此の由の控後をその事より七の由に候へり
杉原権門一生の目下小治合裁、此の由に候へり
○我軍入高と有る目下河川並列に候へり
各列を原居列と云ふは此列國より是れ合裁も、此の
大軍の款、此の由に候へり、此の由に候へり
と云ふは所家の後代の由に候へり、大所、此の由に
の事、この所に候へり、この由に候へり、此の由に候へり

おろく、此の由に候へり、此の由に候へり、此の由に候へり
と云ふは所家の後代の由に候へり、大所、此の由に候へり
一湖、此の由に候へり、此の由に候へり、此の由に候へり
と云ふは所家の後代の由に候へり、大所、此の由に候へり
杉原権門一生の目下小治合裁、此の由に候へり
○我軍入高と有る目下河川並列に候へり
各列を原居列と云ふは此列國より是れ合裁も、此の
大軍の款、此の由に候へり、此の由に候へり
と云ふは所家の後代の由に候へり、大所、此の由に候へり
の事、この所に候へり、この由に候へり、此の由に候へり

及年三張立三有丁も乞師ニ 東照宮様の御神恩及
こととすく難くは縁と年ありひきり
八十を伐しゆふも東し
馬しり心辨の御神恩あり

大道寺

友山撰之



京原十二大呂

藤根集卷十一

六

